

東部丘陵自然公園プロジェクト

1 [何のために?] ねらいや効果

東部丘陵のまとまりのある緑地の多様な自然環境を保全し、人々が自然を体感し、自然の仕組みを学習出来る啓発とコミュニケーションの場とします。次世代に豊かな自然を引き継ぐためにみんなでゆるやかに手作りする継続的な事業として取り組みます。

関連する環境指標 (詳細は資料編参照)

日進自然遊歩道延長、指標生物の生息・生育数



2 [何をいつどのように?] 具体的な進め方

1) 東部丘陵の良さを知ってもらう

	A: 市民主体・行政共働	B: 行政主体・市民参加
東部丘陵ガイドブックの作成と配布	A	
河川周辺の現状調査(毎木調査など)と報告	A	●
市民、親子、各学校での自然観察の支援	A	● ●
保全のための標語募集	A	●
自然観察会、里山保全活動などの定期的な開催	A	● ●

2) 自然公園化するための計画をつくる

	A: 市民主体・行政共働	B: 行政主体・市民参加
土地所有者現況図の作成と協力依頼	A	B ● ●
区域別の必要最小限の施設 ⁹ 整備計画		B ●
(仮称)ネーチャーセンターの機能検討		B ●

3) 東部丘陵自然公園を創り育む

	A: 市民主体・行政共働	B: 行政主体・市民参加
公園用地の確保		B ● ●
自然公園の整備		B ●
岩藤新池周回路など「日進自然遊歩道」の市民参加による手作り	A	●
自然環境の知識を深めながら公園の保全管理をする人達の設置	A	●
環境保全監視隊によるパトロールの実施	A	● ●
市民による環境基金制度の創設	A	

⁹環境保全型自然公園として、過度な施設整備は行わず、例えば各区域にはトイレと保全用道具類置き場の設置のみとすること。

3

[どこで?] 実施場所

岩藤町、藤島町、米野木町、三本木町にわたる東部丘陵

4

[誰が誰と何を?] 取組主体と関係者の役割

取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織、里山保全グループ）
市民（自然観察会・講習会・研修会で知識を深めた人たち、地主）
市（政策推進課、水と緑の課）

市（行政）

公園用地の確保
自然公園の整備
取組主体への支援

市民団体

プロジェクトの推進
イベントの企画協力

事業者

活動や基金への協力

教育機関

教育現場の学習機会創出

市職員

専門分野での支援

市民（滞在者等を含む）

プロジェクトへの参画
自然観察会などへの参加

注）：取組主体としての役割、：関係者としての役割

5

[補足は?] 備考

東部丘陵の自然

（資料編：自然環境調査の概要参照）



東部丘陵の沢



メダカとホトケドジョウ



サンショウクイ



岩藤新池



シラタマホシクサ



ハッチョウトンボ